

小・中学校の適正規模に基づく学校再編に関する地域懇談会 記録

奥州市立小中学校適正規模等検討委員会

地区名	胆 沢 愛 宕 地 区		
日 時	平成 29 年 11 月 22 日 (水) 18 : 30 ~ 20 : 00	会 場	胆沢愛宕地区センター
出席者	事 務 局	教育長、教育部長、学校教育課長、学校教育課長補佐	
	検討委員	委員長 他 3 人	
	地域住民	1 1 人	
◆主な質疑内容			
(質問)		(回答)	
○胆沢愛宕小は児童数が 50 名くらい。地域から学校がなくなると地域の活動が狭まる。地域とすれば、子どもがいなくなれば錆びれてしまう心配があるが、どう考えているのか。		○他の地域でも同様な意見があった。伝統の継承については、地域単位での活動をしている地域もある。子どもの活動を地域とどのように関わらせるかが課題である。	
○再編となると、地域を宅地にと考えなくなる若い世代が増えてくるのではないか。		○町づくり、地域づくりをどうするかが大事になってくる。数だけで学校を再編するのではなく、学校と地域をどう結び付けていくのか考えていきたい。	
○適正規模検討委員会は何年続けるのか。		○31 年度末までの予定である。地域住民へのアンケート、懇談会のもち方の工夫等検討していく。	
○白紙状態の中で、適正規模等の検討を進めているが、今後統合について意向はあるのか。		○進めていかなければならないが、具体的な統合については、まだ白紙である。「保護者の声を聞きたい」、「説明会のもち方(対象、時間、場所等)や周知の仕方を工夫したほうがよい」という意見もたくさんある。内容は検討委員会で検討することになる。	
◆主な意見・要望の内容			
○木細工小のように何十年も複式学級のある学校でも、特性を生かして教育をされている。胆沢愛宕小は複式学級が始まったばかりだが、統合しなくてはという考えも聞かれる。			